

『あいさつ』は魔法の言葉

若狭町立三方中学校 2年 奥村 咲希 (おくむら さき)

あいさつは、日常生活において欠かせない言葉です。みなさんは気持ちをこめて日々あいさつをしていますか。私は、これまでどちらかというと、あいさつはおっくうで積極的に大きな声ではできない方でした。理由は、あいさつをしても、相手から返ってこなかったらどうしようとか、もしそうなったら自分が傷つきそうで嫌だな、という思いがあったからです。実際に、自分なりに気持ちをこめてあいさつをしたつもりでも、声が小さかったからか、相手からあいさつを返してもらえないこともありました。こうした思いや体験から、相手があいさつをしたら返せばいいやとか、知っている人にだけあいさつすればいいや、という考えになり、いつしか私は周りの人に対して積極的に大きな声であいさつをするということはしなくなっていました。

こうした中、私の中学校では「あいさつ運動」が始まりました。これは、学校へ早く登校した生徒たちが、自主的に校門の前に立ち、登校してくる生徒たちに、「おはようございます。」と元気よくあいさつをする運動です。私も一回だけ参加したことがあります。思っていた以上に声が届かないし、緊張しました。こうした状況の中で、いつも自主的にあいさつ運動をしている人たちはすごいなあと感じていました。ある日、毎朝「あいさつ運動」をしているクラスメイトに話を聞いてみました。すると、「あいさつ運動」は特別緊張はしないとのことでした。なぜなら、「あいさつ運動」を通して、あいさつすることが当たり前になっているから、と話をしてくれました。そのクラスメイトから学んだことは、あいさつをする「習慣」がつくだけで、自分のあいさつに対するイメージも変わるし、相手に届く自分のあいさつのイメージも変わり、結果的に気持ちの良いあいさつが返してもらえるとということでした。

私の抱いていたあいさつのイメージについては、私が中学二年生になってからも大きく変わる出来事がありました。私の所属している吹奏楽部で、新入生を迎えることとなり、初めて先輩の立場になったときのことです。今まで先生や先輩といった目上の知っている人には、なんとなく自分からあいさつをしているだけでしたが、急に部活の後輩からあいさつをされる立場になりました。廊下や階段などで、後輩から積極的に大きな声であいさつをされたとき、とてもさわやかで気持ちの良い、元気が出る気分になりました。このとき、あいさつは相手の存在を認め、元気を与えてくれる源なんだと感じました。そして、自分もあいさつをしてくれたその後輩のことを覚えよう、次に部活で会ったときには話をしようという気持ちになりました。今まで私は、あいさつをしなさいと学校の先生から言われてなんとなくあいさつをするばかりでしたが、初めてあいさつをされる立場になって、あいさつをされる側の気持ちも理解できるようになりました。

私はあいさつ運動や部活動で初めて後輩ができたという環境の変化を通じて、今まで見えなかったあいさつの持つパワーやすばらしさを知ることができました。あいさつは、たった一言、言葉を交わすだけで相手の存在を認めることができる魔法の言葉ではないかと思います。そして、お互いの緊張をほぐし、日頃の感謝を伝えながら仲良くなれるきっかけを生み出してくれるように感じます。

私は、今まであいさつはできるだけしたくない派でしたが、あいさつは自分も周囲も元気にできる魔法の言葉であることに気づくことができたので、これからはもっと積極的にあいさつをするのに向き合いたいです。その第一歩として、まずは定期的に朝の「あいさつ運動」に参加して、「私のあいさつ」を習慣化していきたいです。こうすることで「私のあいさつ」も「みんなのあいさつ」に加わって、学校全体に広がりながら、後輩たちへと引き継がれていくと良いと思います。